

JAバンクは地域の扱い手を応援します

6

今月の話題

結び付け態勢整備

農福連携推進へ提言 全国ネット

す。さらに、障害者が作業を分担しやすいように、一連の仕事を見直して細分化、器具や施設のユニバーサルデザイン化も進めるような人材育成への支援も求めています。

都道府県で組織する農福連携全国都道府県ネットワークは5月11日、農業と福祉の連携（農福連携）の促進に必要な施策提言を発表しました。農福連携を社会の大きな流れとするため、関係省庁が中心となつて意識啓発をするよう提起し、農業経営体と福祉事業所を結び付けるコーディネーターの育成や、農業側の受け入れ態勢を整える人材研修制度の創設などを盛り込みました。ネットワークは同日、提言の実現に向け、農水省などで要請活動を展開しました。

ネットワークは昨年、三

重、長野、岐阜、京都、島根

の府県知事が発起人となつて設立、45都道府県が参加しています。各都道府県として地域での農福連携の定着を進める一方、取り組みが全国に広がるよう国にも提言し、全国的な制度化を求めており、今回が初の提言

です。
福祉事業所の農業参入、農業経営体による障害者の雇用、障害者の農業施設への就労拡大などを目指し、整備すべき課題を提言にまとめました。

提言では、働き場所が欲しい福祉事業者と働き手が欲しい農業者

農福連携の促進に向けた提言のポイント

- ・関係者への意識啓発を関係省庁が中心になって行う
- ・農業と障害者をつなぐ支援体制の整備に対する支援
- ・農業版ジョブコーチの育成と活動支援
- ・農業に係る職業教育プログラムの構築に向けた支援
- ・従来の補助事業の助成対象の拡充と継続
- ・「ノウフク・ブランド」の知名度向上に向けた情報発信

障害者の受け入れがスムーズに運ぶよう、厚生労働省は「ジョブコーチ（職場適応援助者）」という制度を設けています。が、提言では農業版ジョブコーチを育成する全国的な研修制度が必要としている

の仲を取り持つコーディネーター育成の必要性を指摘しました。コーディネーターは、既に11府県で設けられています。また、育成に向けた研修や活動を支援するよう、農水省と厚生労働省に求めました。

今	が	旬
こ	の	言葉

フード・
マイレージ

食料の輸送量(↑)に輸送距離(→)を掛け合わせた指標で、食料の輸送が地球環境に与える負荷を把握するのに役立ちます。生産されてから消費者に届くまでの距離が短い地産地消は、フード・マイレージが小さくなりますが、輸送に限定した指標のため、生産面や消費、廃棄面での環境負荷を含まない点に留意する必要があります。

営農技術 Pick up

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

米国への輸出拡大へ	伊勢茶の輸出拡大へ
対象として、①米国	対象として、①米国
二番・秋番茶を輸出	二番・秋番茶を輸出
できる農薬の選定②	できる農薬の選定②
輸出向け栽培に使用	輸出向け栽培に使用
三重県農業研究	三重県農業研究
所は米国の残	所は米国の残
留農薬基準に対応し	留農薬基準に対応し
た、かぶせ茶栽培の	た、かぶせ茶栽培の
病害虫防除指針を	病害虫防除指針を
発表しました。一番・	発表しました。一番・
は著しく低い値であ	は著しく低い値であ
るため定期的な確認が必要です。	るため定期的な確認が必要です。
総合的病害虫・雑草	総合的病害虫・雑草
管理で使用する農薬	管理で使用する農薬
の成分を減らす③被	の成分を減らす③被
覆直前の農薬散布は	覆直前の農薬散布は

表 米国輸出向けかぶせ茶栽培における年間防除体系の例

防除時期	対象病害虫	使用する農薬の例(薬剤の分類)
3月下-/茶萌芽前	ハダニ類	スピロメシフェン水和剤(虫23)
4月上-/茶生育期	ハダニ類	BPPS乳剤(虫12)
5月中~下/二茶生育期	(ハマキガ類)	(追加防除を行う場合)BT剤(微生物) (夏期の防除代替)トドリアル剤
6月上/二茶生育期	チャノホソガ、ハダニ類 チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	ミルベメクチン乳剤(虫6) トルフェンビラ水和剤(虫21)
7月中/二茶整枝後	輪斑病	アゾキシストロビン水和剤(菌11)
7月下旬/三茶生育期	クワシロカイガラムシ チャノミドリヒメヨコバイ	フェンピロキシメート・ プロフェンジン水和剤(虫21・虫16)
8月上~中/三茶生育期	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ ハマキガ類ほかチョウ目害虫	シアントラニリプロール水和剤(虫28)
8月中旬/秋茶生育期	炭そ病	銅水和剤(菌M1)
8月下旬~9月中旬/秋茶生育期	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ	クロチアニジン水溶剤(虫4)
1~3月	(クワシロカイガラムシ)	ビリプロキシフェンマイクロカゼル剤 (虫7)

年間の農薬散布回数8回・農薬分子数10成分(必要に応じて追加防除)
2017年7月現在の米国の残留農薬基準および日本における農薬登録情報によるもの。

お問い合わせ先

三重県農業研究所 茶業研究課 ☎ 0595-82-3125

県内NEWS

(日本農業新聞より)

■ JAみえきた 生産者の育成へ 専属指導員を配置 相談に即応体制

三重県のJAみえきたは、4月人事で直売所専属の「生産者育成指導員」2人を配置した。畠に出向いて出荷会員の相談に即応できる体制だ。栽培方法から売れる野菜まで現地で指導する。定期的に栽培講習会を開き、新規出荷者も増やしていく。指導員は直販課に所属し、活動拠点を「四季菜 尾平店」(四日市市)と「いなべっこ」(いなべ市)に置いた。対象はこれまで営農指導員が足を運ばなかった小口出荷者で、これからは機動力を生かした対応が可能になる。

(2018/5/14 直売)

■ JA鈴鹿 放棄地防止へ稻作 農家から借り受け 率先して職員が栽培

JA鈴鹿は、JA自らが農業をする農業経営事業で、今年度新たに稻作を始めた。農家から借り受けた圃場(ほじょう)を、管内の小中学校の給食用野菜の栽培圃場や、営農涉外員の実習圃場として活用。JA自ら率先して農業を行うことで、耕作放棄地の発生防止に努めている。昨年度から水田農業経営の開始に向けて農地集積への取り組みを始めた。集積した農地の多くは、担い手となる農家や後継者のいない高齢者が所有する農地が多い。

(2018/5/9 ワイド1東海)

■ JA三重大中央 獣害対策に役立て 津市に捕獲おり贈る

JA三重大中央は5月上旬、津市役所を訪れ、前葉泰幸市長に有害獣捕獲用おりを寄贈した。おりは鹿、イノシシなど大型動物用の4基と、アライグマ、ハクビシンなど小動物用の8基。JA管内の4地区の獣害対策に使われる。JAでは今年度、「JA三重大中央合併30周年農業支援事業」をスタートし、害獣用おりの寄贈は事業の一環だ。以前から同市は、おりの貸し出しをしていたが、数量に限りがあり不足していた。

(2018/5/10 ワイド2東海)



農業を営むすべての方に

農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を5年間軽減いたします。

JAバンク利子補給制度(3年間)
当JA金利引き下げ(2年間)措置の対象となります。

利子補給および金利引き下げの適用イメージ→変動金利型の場合～

《お借入金利》
金利年1%

《JAバンク利子補給・
金利引き下げ》
年0.8%

= 実質
5年間
年0.2%

詳しくは、お近くのJA/バンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年5月現在

※JAバンク利子補給・
当JA金利引き下げ後の
ご負担金利は0.2%を下
回らないように調整され
ます。

※イメージは実際とは異
なる場合がございます。
詳しくはお近くのJA/バン
クまでお問い合わせください。

※JAバンク保証料助成
により、実質保証料が0
円となります。



0
円
実質
保証料